

大学名	コメント
長崎国際大学	定員充足を目指すことと合わせ、退学による離学防止、留年者数の減少のため、一人一人の学生に対応したきめ細やかな学生支援を行うことが課題である。そのためにはまず初年次教育を充実させ、入学後の学生が本学での学修活動に馴染み、各々の資格取得や就職等のキャリア目標を見定めて十分な学修時間を確保し、充実した学修活動を展開することができるよう、教職員協働で的確で切れ目のないサポートに取り組んでいくことを、本学の重要な課題として考えている。
長崎総合科学大学	本学の社会人学生数は0人である。 退学率は4.04%と大きい。留年率も3.43%と小さくない。進学率は卒業生数の5.23%である。
長崎外国語大学	学修時間について各校で大きなバラつきがあり、中でも本学は低値であるため気がかりなところ。 また就職率も私立4年制大学の中では本学が最も低くなっており、その理由は、卒後母国への帰国後に就職する留学生の就職決定までに(年度の端境期の違いによる)タイムラグが存在するためであるが、多くの留学生を抱える他大学各位では一定程度の就職実績を挙げており、本学として各大学の先行事例等を参考に対策を検討したい。 今後について、本学が所管する留学生支援WGの立場から(かつて会議席上で産業界の構成員からもお尋ねのあった通り) 「留学生の域内定着促進」も本QSPの重要なテーマであり、今後「卒業留学生の域内就職率調査」の実施について、共同IR所管WGでご検討いただければと思う。
鎮西学院大学	収容定員充足率の平均は、私立大学で93.8%、短期大学88.1%となっている。 在籍学生数に占める留学生数の割合は、私立大学で6.2%、短期大学で8.8%となっている。 同じく社会人学生数の割合は、私立大学で0.4%、短期大学で3.1%となっている。 私立では、大学より短期大学の方が、オーソドックスな高卒日本人学生とは別に、多様な学生の受け入れに努力していると言える。 18歳人口の激減期のなか、プラットフォーム事業の方向性として、留学生や社会人など多様な学生の受け入れに向け、 ・短期大学卒業後の編入学プログラムの開発 ・産学連携による短大卒業後のキャリアパスに応じた編入学プログラムの開発 をはじめとする、大学・短期大学の双方の学生獲得・定員確保、域内での人材育成や学び直しに寄与する事業展開が望まれる。
西九州大学	留学生が少ないため、今後、留学生を増やしていく手立ても考えていきたい。
長崎短期大学	定員充足率100%を達成するため教育・研究活動を推進し、選ばれる高等教育機関を目指す。令和3年度は離学者が多かったため(コロナの影響で入学できずに退学した留学生が多数)、教職協働による学生支援体制の充実を図る。
西九州短期大学部	本学は退学状況に着目した。西九州大学短期大学部の中退率は2.77%となっており、参画短期大学の中退率(平均4.52%)を下回る結果となった。また、調査年度(令和3年度)の全国私立短大(高専含む)の中退率は3.4%、九州圏内の私立短大(高専含む)の中退率は3.6%となっており、全国私立短大の平均値よりも低いことになる。 本調査では退学理由は照会していないが、参画大学等で退学理由を分類し、中退予防につながる取組みを検討してはどうか考える。 その他、大学の規模や留学生の数、教員1人あたりの学生数との関連を確認したが、中退率との関連は見られなかった。 ※全国の中退率は、日本私立学校振興・共済事業団(私学経営情報センター)のデータを参照
佐賀女子短期大学	IRデータによると、本学は他の短期大学に比べて留年者が少ないが、退学者数は多い。留年者の少なさには成績評価のあり方が影響している可能性があり、今後は成績評価を厳格化すべきと考える。一方、退学者数の多さについては進級や卒業前に学生が留年でなく退学を選択することが影響している可能性がある。これらのデータから、本学では成績評価の強化を行うとともに、中途退学を抑制するための学生支援が重要な課題であると認識している。
九州龍谷短期大学	特徴として、①～③が挙げられます。 ①在学生における社会人学生の割合の高さ ②在学生における退学者の多さ ③卒業生における進学率の高さ ①に関しては、産業技術学院の学生 ②に関しては、在学中のサポートについての見直しが必要 ③に関しては、仏教コースの学生の龍谷大学への編入の多さと、データサイエンスコースにおいても進学希望者が増加したことが原因ととらえます。